

劉 学升



勤務先：遼寧省疾病予防コントロールセンター/中国

研修分野：微生物検査技術（下痢症、呼吸器感染症等）

研修機関：神奈川県衛生研究所

Name: Liu Xuesheng

Employment : Liaoning Province Center for Disease Control and Prevention

Training Subject: Testing techniques of bacteria

(diarrhea, respiratory tract infection etc…)

Place of training : Kanagawa Prefectural Institute of Public Health

来日前について

私は 2009 年 9 月に遼寧省の衛生・家族計画委員会配下の遼寧省疾病予防コントロールセンターに就職しました。同センターは現代の予防医学の理論と技術を生かして疾病の予防や衛生検査、科学研究の研修を行う専門機関です。国家実験室認可及び計量認証（CMA）の 2 つの資格の合同審査に合格した、省内の衛生・疾病予防技術指導センターの役割を担う検査機関であり、内部に設けられた 31 の部・課・所に 430 以上の職員が勤めています。

私は現在、微生物検査技師として勤めて 5 年あまりです。主にペスト、炭疽、ブルセラ症など自然宿主由来の疾病や、コレラ、腸チフス、赤痢など腸管感染症の病原体検査を担当しています。

14 世紀のペストから 20 世紀初頭のインフルエンザに至るまで、感染症の大流行が人類の歴史の転機となって来ましたが、社会が進歩し科学技術が進む中、今世紀には伝染病の猛威は治まっている感もあります。しかし、2000 年にアジアを襲った SARS や昨年世界を震え上がらせたエボラ出血熱は、感染症の予防・制圧の難しさや公衆衛生の課題を改めて突き付けるものとなっています。

1897 年の志賀潔氏による人類の赤痢の原因となる志賀毒素の発見から、2012 年の山中伸弥氏のノーベル医学生理学賞受賞に至るまでの素晴らしい成果。更には高度経済発展の中で厳格な食品安全規制と優れた

公共衛生環境を確立するなど、日本は生物医学分野の研究で常に世界のトップレベルにあります。中国と日本は一衣帯水の隣国として歴史的に古くから往来を重ね、食文化や衛生習慣、居住方式などがかなり類似しています。感染症の予防・制圧や食品の安全は共通した課題となりますが、これに対して日本が作り上げた早期警戒・監視システムの仕組みや予防・制圧手段及び事前検査技術の中身、実験室の効率的な運営方法、そして感染情報及び病原体の解析方法とはどんなものなのか？

こうした問題意識を胸に、海外技術研修員の 1 人として憧れの国・日本にやってきました。神奈川県と遼寧省は 1983 年に友好関係を結んで以来、文化・経済・技術などの面で幅広く交流していますが、同県の感染症予防・食品安全衛生対策の中核であり、私の所属する遼寧省疾病予防コントロールセンターと緊密なやりとりを続けている神奈川県衛生研究所に研修に来られたことを本当に幸運に思います。

専門研修について

神奈川県衛生研究所は閑静で美しい茅ヶ崎市にあり、毎日の通勤時には神々しい富士山を遠くに望むことができます。研究所の先生は親しみやすい方ばかりで、合理的な設計の実験室にある充実した計器類には綿密な操作規範が設けられています。以下、多岐にわたる研修の内容を時系列に沿って示します。

平成 26 年 十月：腸管系細菌グループ

1. 細菌性胃腸炎サーベイランス。検査対象：EHEC、その他下痢原性大腸菌、赤痢菌、チフス菌、サルモネラ、エルシニア エンテロコリチカ、コレラ菌、腸炎ビブリオ、その他ビブリオ属菌、エロモナス、セレウス、ブドウ球菌、ウェルシュ菌、カンピロバクターなど。
2. 大腸菌病原因子のポリメラーゼ連鎖反応（PCR）検査法。
3. 細菌血清型凝集検査法。
4. オウム病クラミジア検査法。
5. 細菌のパルスフィールドゲル電気泳動法（PFGE）解析。

平成 26 年 十一月：インフルエンザウイルスグループ

1. 細胞培養によるインフルエンザウイルスの分離方法。
2. インフルエンザウイルス分離株の同定試験。
3. インフルエンザウイルス RNA 抽出法。
4. インフルエンザウイルスのリアルタイム RT-PCR 検査法。
5. インフルエンザウイルスの One Step RT-PCR 検査法。

平成 26 年 十二月：下痢症ウイルスグループ

1. 患者の便から RNA の抽出法。
2. ノロウイルスとサポウイルス のリアルタイム RT-PCR 検査法。
3. ノロウイルスとサポウイルスとアストロウイルスの Nested RT-PCR 検査法。
4. ロタウイルスとアデノウイルスの Multiplex RT-PCR と Rapid Test 検査法。

平成 27 年 一月：呼吸器系細菌グループ

1. A 群溶血レンサ球菌検査法。
2. レジオネラ属菌検査法。
3. 結核 QFT 検査法。
4. 結核菌遺伝子疫学 VNTR 解析法。

平成 27 年 二月：腸管系細菌グループ

- カンピロバクター遺伝子疫学 CGF 解析法。

出張及び見学

- 第 60 回 神奈川県公衆衛生学会
- 第 28 回 日本エイズ学会学術集会総会
- 第 27 回 地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究会
- 神奈川県立保健福祉大学見学
- 川崎市健康安全研究所見学
- CIA 実験動物中央見学
- テルモメディカルプラネックス見学

実験は理論の解説から始まります。その後、先生の実演を受け、手ほどきを受けながらの操作。最終的に一人で最後まで操作できるようにするという入念なカリキュラムです。それでも先生方は常に微に入り細を穿った解説で熱心に指導してくださいました。私はこれまでウイルス関連の検査は行ったことがなく、最初の培養はびくびくしながらやっていました。細菌の培養とは全く異なり、様々なことに注意が必要でした。そんな私もこの 5 カ月の間に、こうした感染症の病原体の検査方法を習得することができました。実験における細かい操作技法なども貴重な財産となりました。毎日細胞の病変を観察するのはとても興味深く、最終的な実験結果も満足のゆくものでした。知識の不足を補い体系的な知識を自分のものとし、感染症に対する認識も一段と深めることのできた研修となりました。

日本には定点医療機関から市の保険所や県の衛生研究所、国立感染症センターに至るまでの感染症監視システムが整備されています。検体や重要な情報も必要に応じて即座に専門機関に提供され、信憑性の高い科学的な検査結果を迅速に手に入れることができます。患者の迅速な治療や対策づくり、感染症拡散防止に資するシステムとなっています。実験で得られたデータは全て記録され、時間やエリアなど条件ごとにまとめられます。そして、先進的な分析方法で法則性を探り早期の対策に活かされます。

中国の古い言葉に「人には魚を与えるより漁の方法を教えるべきだ」という言葉がありますが、先生の教授法はまさに、問題解決に向けて自分の頭で考えさせるやり方を中心としていました。1 つの検体についても、患者の症状や疫学的な知見に基づいて調査を行って、採用する検査方法を決定します。また、実験の進み具合に応じてより正確な結果が得られるよう、その都度実験計画を調整します。こうした慎重な姿勢や科

学的な考え方が最も勉強になりました。一生の財産です。

3度の専門学会も実り多きものでした。中国では一般の職員が参加できる学術交流や機密情報の共有の場は少ないですが、日本では駆け出しの職員であっても発表したい内容さえあれば参加できるのです。自分の従事する分野の動きを知り、思考回路を広げて業務を見直すことができるだけでなく、業界全体の研究レベルの向上にもつながる仕組みです。

帰国後について

日本の公共衛生の現状とともに、様々な病原体の検査方法についての学習成果を遼寧省疾病予防・制圧センターの仲間たちに伝授します。省で既に行われている病原体の監視では、実験室で新たな検査方法を試行し、その結果を分析して検出率の向上に努めます。まだ行われていない病原体の監視では、実際の状況と衛生行政当局の要請に基づいて監視の必要性及び実行可能性を検討し、技術や試薬の蓄積を図ります。研修では結核菌 VNTR（反復配列多型）解析法、カンピロバクターCGF（比較ゲノムフィンガープリント）解析法という2つの重要な分子生物学的解析法を学びました。帰国後はこれらの解析法に基づいて実験室の既存の菌株の解析を行い、省にある菌株との関連や遺伝的変異の法則性を研究します。また、省内の市や区の疾病予防・制圧センターの実験室に対する技術研修を行います。

検査技術よりも更に重要と思われるのは、日本の実験室の先進的な管理哲学です。また、先生方の厳格な研究手法や献身的なまでに入念な姿勢、感染症の予防・制圧に従事する者としての責任感と使命感です。私自身が模範となり、こうした哲学や精神を仲間たちに伝えていきたいです。

日本のきれいな自然環境や優れた伝統文化、人々のやさしさを身近な人たちに伝え、本当の日本を知ってもらいたいです。

帰国後は現場での職責を全うし、日本語の勉強を継続します。遼寧省と神奈川県の今後の技術交流、そして日中の友好に微力ながらも貢献できればと思います。

日本での7ヶ月間

夏には横浜港の穏やかな海風や江の島の華やか花火。秋には関内の黄金色の銀杏のじゅうたんや京都の紅葉狩り。冬には自然に包まれた箱根の温泉や北海道の白銀の雪景色。日本には春夏秋冬、四季折々の魅力があります。

電車の駅を忙しく行き交う人々。海岸をはしゃぎ回る子供たち。喫茶店でコーヒーを飲みながら思索にふける若者や、神社で熱心にお祈りするお年寄り。古いお寺には光を放つ自動販売機も。街の喧騒の中、並んで信号待ちをする、スーツでびしっと決めたサラリーマンと和服姿の女性。ファインダー越しに仲良く並ぶ雷門とスカイツリー。日本は現代と伝統、ストレスとゆとりが見事に調和した国です。学園祭、神社の祭り、節句など様々な伝統行事では、老いも若きも華やかな衣装に身を包んで盛大な催しを楽しみます。テレビや舞台の上ではなく、ごく身近な場所にこうした伝統があるのです。市井の人々の生活にしっかりと根付いたお茶や生け花、弓道、和太鼓などの伝統の技が、進化しながら受け継がれています。無形文化遺産か否かなど重要ではないのです。

ホームステイ先のお父さんとお母さんはそれぞれ85歳と79歳でしたが、各自ボランティアで留学生に日本語を教えたり歌のサークルに参加したりと、かくしゃくたるものです。藤沢の海岸を一緒に30分ほど散歩しましたが、疲れた様子などありませんでした。日本の高齢者が健康なのは趣味の多さや整った社会保険制度のお陰だと、私は思います。神奈川県立保健福祉大学を見学して分かったことは社会保険を重視する姿勢です。正確で詳細なデータの把握、サービスの専門人材の確保、高齢者が使いやすいように配慮の行き届いた公共施設、関連産業の促進、政策や制度の設計。多くの自発的な公益団体によるサービスも重要です。高齢化は日本と中国が直面する課題ですが、日本の取り組みは他の国にとっても学ぶべき価値があります。

路線バスや電車は常に正確なので、外出前にはルートを分単位で検討できます。交差点では歩行者を優先して自動車の方から止まってくれるので、ゆったりと落ち着いて道を歩くことができます。また、どの建物にもバリアフリーの設備が設けられています。バスや電車には必ず車いす用のスペースがあり、必要に応じ

て係員がすぐに対応に駆け付けてくれます。道を聞けばやさしく教えてくれるので、迷っても大丈夫。日本はやさしさと思いやりにあふれた国です。

デパートや学校、観光地、建設現場、政府機関など至る所にかわいいキャラの姿があり、安全を促したり、禁止事項を伝えたり、「ご迷惑をおかけしています」と謝ったりしています。更には機関や都市をイメージした「ゆるキャラ」のぽっちゃりとした着ぐるみまであり、思わずニヤリとしてしまいます。ドラえもんミュージアムやジブリ美術館はいつまで見ても飽きません。日本はかわいい国です。

ゴミ捨てはまず分別の仕方をしっかり調べます。建設現場の囲いには騒音測定器が掛けられ、ダンプカーはタイヤの泥をきれいにしてから公道に出ます。米は最後の一粒まで食べます。ラーメン店「一蘭」では最後までスープを飲むとどんぶりの底から「この一滴が最高の喜びです」の文字が現れます。スープの味への評価であり、一滴も無駄にしないことへの喜びの表現でしょう。日本は自然を大切に、環境を守る国です。

飛行機から下り立った直後の右も左も分からない不安感も今では名残惜しさに変わっています。7カ月の研修期間中、神奈川県庁、神奈川県衛生研究所、そして神奈川県国際研修センターの職員や先生方は、至れり尽くせりで面倒を見てくださいました。充実した研修メニューや多くの課外活動、快適な生活環境を準備して下さったことに感謝いたします。海を渡り異国の地を踏んだ私ですが、新年、誕生日、旧暦の新年を過ごす中で孤独や不安を感じたことは一瞬たりともありませんでした。それはひとえに、皆さんが無私の献身と心からの配慮で家族同様に暖かく迎えてくれたお陰です。日本語の先生、ホームステイ先のご家族、海老名国際交流の会、県立短期技術大学、二俣川小学校など日本で出会った全ての人たちに感謝いたします。この7カ月間は一生忘れることのない美しい思い出となるでしょう。

皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

皆さんが中国や私の郷里にいらっしゃるのを心よりお待しています。皆さんのことはいつまでも忘れません。

Before coming to Japan

I got a job at the Lioning Province Center for Disease Control and Prevention in September, 2009. It's under the Hygiene & family planning committee of Liaoning province. The center is the specialized institute which studies prevention of a disease, sanitary survey and a scientific research using recent theory of a preventive medicine and technology. It's the institution of inspection passed joint examination for two qualifications—National Experiment & Permission, China and National Accreditation Service for Conformity Assessment—with a role of a disease prevention technical guidance center. There are 31 departments, sections and groups where more than 430 staff members are working. I have worked for 5 years as a microorganism check engineer. I am mainly in charge of inspection of diseases from natural host origin such as plague, anthrax and brucellosis and a pathogen check of an intestinal tract infection such as cholera, typhoid and dysentery.

The pandemic of infections of the plague from 14th century to the influenza in the beginning in the 20th century has been turning point of human history however while society advanced and science and technology have developed, it seems like the rage of infectious diseases has calmed down. But SARS which attacked in Asia in 2000 and the Ebola hemorrhagic fever which made the world shudder last year warn us to realize difficulties of the prevention of an infection and the control and the problems of public health.

Japanese wonderful accomplishment from discovery of the Shiga toxin which causes human dysentery by Mr. Shiga Kiyoshi in 1897 to Mr. Shinya Yamanaka's Nobel medical physiology prize in 2012, moreover such as establishing strict food safety regulations and the excellent public sanitary environments under the rapid economic growth, Japan has been in top level of the study of the biomedicine field in the world. China and Japan are separated by only a narrow strip of water. We have

had a long historical relationship as neighboring countries since old days, and we have many similarities in food culture, a sanitary way and a resident system. Prevention of infections and control, and safety of food would be a common theme. I was wondering what are the mechanism of early warning and a watch system, the contents of the prevention control methods and the preliminary inspection technique, the efficient management of laboratories, solutions and analysis methods of infection information and pathogens.

I came to Japan—the country I admire—as an overseas technological trainee holding an awareness of those issues in my mind. Kanagawa prefecture and Liaoning province have had cultural, economical and technological interchanges widely since the friendly relationship was established in 1983. Especially, infection preventions and measures of food safety and hygiene in Kanagawa are a core of those exchanges. Kanagawa Prefectural Institute of Public Health has had close exchanges with the Disease Prevention & Control Center of Liaoning province where I belong to. I feel so fortunate to be able to come here as a trainee.

On Specialized training

Kanagawa Prefectural Institute of Public Health is located in a quiet and beautiful city of Chigasaki. Divine Mt. Fuji can be seen at the time of daily commutation. All staff members and instructors are very kind. A minute operational model is set up to the substantial instruments in the laboratories with a rational design. Here are the contents of various training programs as below along with the time series.

In October, 2014: The intestinal tract system bacteria group

1. Bacterial stomach flu surveillance. Test object: EHEC, diarrhea primitive colon bacillus, dysentery bacteria, typhoid bacillus, salmonella, Yersinia enterocolitica, Cholera

bacteria, parahaemolytic vibrio, vibrio genus bacteria, aeromonas, cereus, staphylococcus and clostridium perfringens and campylobacter etc.

2. Check way of *polymerase* chain reaction (PCR) cause of Colon bacillus pathogenesis factor
3. Check way of bacteria serotypic cohesion
4. Check way of psittacosis Chlamydia
5. Analysis of pulse field gel den C intention migration way (PFGE) of bacteria.

In November, 2014: The flu virus group

1. Separation method of the flu virus by a cell culture.
2. Distinction test of the flu virus stock separate.
3. The flu virus RNA extraction method.
4. Real time RT-PCR check way of the flu virus.
5. One Step RT-PCR check way of the flu virus.

In December, 2014: The diarrhea symptoms virus group

1. The extraction method which is RNA from patient's excrement.
2. Real time RT-PCR check way of a norovirus and sapovirus
3. Nested RT-PCR check way of a norovirus, sapovirus and an astrovirus.
4. Multiplex RT-PCR of a rotavirus and an adenovirus and Rapid Test check way

In January, 2015: Respiratory system bacteria group

1. A group hemolysis streptococcus check way.
2. Legionella bacterial check way.

3. Tubercular QFT check way.
4. Tuberculosis bacillus genetic epidemiology VNTR analysis way.

In February, 2015: The intestinal tract system bacteria group

Campylobacter genetic epidemiology CGF analysis way.

Field trips and Observations

The 60th Kanagawa prefecture public health academic meeting

The 28th Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research

The 27th The National Council of Kanto Koushin branch bacteria workshop

The field trip to Kanagawa University of Human Services

The field trip to the Institute of Kawasaki Public Health

The field trip to Central Institute for Experimental Animals (CIEA)

The field trip to Terumo Medical Pranex

An experiment starts from explanation of theory. After observing my instructor's demonstration, I tried to do the operation with some advice. It's the careful curriculum which made sure that I could operate until the end by myself finally. They always taught me eagerly with detailed explanations. I had never done about the tests of virus-associated before, so I was very nervous while I was doing the first cultivation. As it was completely different from cultivation of bacteria, careful attention was necessary for various things. Finally I could acquire the inspection methods of infectious diseases, caused by pathogens during these 5 months. The close operational techniques in an experiment were valuable assets as well. It was very interesting to see pathological changes of cells every day and the final result of experiments was highly satisfactory. It was such a fruitful training for me to deepen my

understanding of infectious diseases, acquiring the systematic knowledge and covering the lack of knowledge. The infection watch system is provided in Japan, from the local medical institutions to the city public health centers and the prefectural institutes of public health, even to the national institute of infectious disease. Samples and important information are offered to the specialized agency immediately as the need arises and you can get the scientific test results with the high reliability quickly. This contribute to give prompt treatments to patients and also to make countermeasures and nonproliferation system of infections. All data from the experiments is recorded, and gathered under the condition of time and area. Then with advanced analysis method, the data is utilized for the early countermeasures.

As an old Chinese proverb goes "You should teach how to fish rather than to just give them fish", my instructor suggested me to consider and solve the problems by myself. I inspected about a sample based on the symptoms of the patient and epidemiological knowledge then decided which inspection method I should take. To obtain more precise results according to the experimental progress, we try to adjust the experimental designs each time. Such careful attitudes and scientific ways of thinking are the best I have learned. This could be the treasure of my life.

The special academic conferences I attended 3 times were also fruitful. There are few chances that general staff can take part in the academic interchange or share the classified information in China. But in Japan, even novice staff can participate if they have some important opinions to be announced. This is the system not only to improve the study level of the whole industry but also to open the patterns of thinking and reconsider your works while noticing the movement of the field in which you're engaged.

After going back home

I will initiate my colleagues at Liaoning Province Disease Prevention Center into my learning achievement – the inspection methods of various pathogens as well as the current state of the public hygiene in Japan. As for monitoring of the pathogen already performed in a province, I will try a new inspection method in a laboratory. We will make efforts toward improvement of the detection rate by analyzing the results. We will examine the need of the monitoring which has not performed yet, and do a feasibility study based on actual circumstances and the requests from the sanitary administration, and aim for the accumulation of a technique and the reagent. I learned tubercle bacillus VNTR (repetitive sequence seasonal polymorphism) analytical method, two important molecular biologic analytical methods called the campylobacter CGF (comparison genome fingerprint) analytical method in the training. After returning home, I will analyze the existing bacterial stock of the laboratory based on these analytical methods and study the relations with the bacterial stock in province and law of the hereditary mutation. I will perform the technical training for the laboratories of the disease prevention and control center in wards, cities and the province.

Advanced management philosophy of the Japanese laboratory seems to be more important than an inspection technology. It's also important to have a sense of duty as a person engaging in strict study techniques and the devoted attitude toward study. I would like to convey such philosophies and spirits to my colleagues as I, myself would be a model. I also tell them about the beauty of the natural environment in Japan, excellent traditional culture and kindness of Japanese people as I want them to know real Japan. After returning to my country, I will do my best on my job and keep studying Japanese. I wish to contribute to exchange technology between Liaoning province and

Kanagawa prefecture, and the friendship between Japan and China even a little.

Seven months in Japan

Gentle breeze from Yokohama bay and fantastic fireworks at Enoshima in summer, golden carpets of ginkgo leaves in Kannai and autumn red leaves in Kyoto in fall, hot springs in Hakone are surrounded by nature and shining silver-white snow scenery in Hokkaido in winter, Japan has distinctive 4 seasons and each one has own beauty and charms. There are people who come and go busily at the train station, children romping around at the sea shore, young people who are absorbed in contemplation while drinking coffee at the café, the elderly who pray eagerly in a Shinto shrine. I saw the scenes in a town – the vending machine which emitted light in an old temple, the businessman dressed in a nice suit and a woman in kimono who I lined up in the noise of the town, and waited at a stoplight, Kaminari-mon Gate and the Sky Tree which were seen together over a viewfinder of camera peacefully. Japan is the country where the modern and the tradition, stressful and peaceful mind harmonized each other wonderfully. Young & old people enjoy the big events wearing beautiful costumes on the occasion of the school festival, the festival of shrine and the various traditional events. Those traditions certainly exist in your neighborhood, but not on TV or the stage of the theater. The traditional skills such as tea-ceremony, flower arrangement, Japanese archery and Japanese drums have rooted deeply in the society and have inherited to the next generation while they are evolving. It is not important whether they are Intangible Cultural Heritage or not.

My host father is 85 and host mother is 79 but they are very active and energetic, such as teach Japanese to the exchange students voluntarily and join the chorus group. We took a walk together along the Fujisawa beach for 30min but they seemed just fine. I think that many hobbies and the

complete social insurance system contribute to the fact that a Japanese elderly are healthy. After visiting Kanagawa University of Human Services, I realize their posture which emphasizes a social insurance. The social insurance aims for the grasp of correct and detailed data, the security of the enough staff specialized for the public services, the public accommodations where the elderly people are easy to stay, the promotion of the associated industries and the policy and a systematic design. The services by many voluntary groups of public interests are also important. Aging society is the problem that Japan and China face, but the measures Japan has taken are worth learning for other countries. The shuttle buses and the trains are always punctual, so a route can be considered by a minute unit before going out. Because the drivers give priority to pedestrians at the crossing then stop their cars, so that you can walk the way calmly comfortably. Also the barrier-free facilities are installed in every building. There is space for wheelchairs in public busses and trains, and a staff in charge will rush to correspondence immediately as needed. In case you get lost, you'll be fine as someone will help you and show the directions kindly. Japan is the country which overflowed in gentleness and consideration.

Everywhere I go such as the department stores, schools, sightseeing spots, construction sites and the public spaces, I can see the lovely costumed characters, promoting security, suggesting prohibited matters and apologizing with saying, "Sorry for this trouble". Moreover, I put a smile on my face instantly when I see "Yuru-kyara" – costumed mascot characters which imagined a certain city for PR purposes. I never get bored when I am in "Doraemon museum" or "Giburi museum". Japan is a lovely country.

When I throw garbage away, I check the classification carefully first. A noise meter is hung on a fence at the construction sites, and the dump trucks go out to the public road after cleaning the

mud of the tires. Japanese eat the rice to last one drop. When you eat "Ramen" at the ramen shop *Ichiran*, you will see the words "This one drop is the best delight" on the bottom of the bowl, after you finish the soup. It means the value of the tasty soup and appreciation for the customers who never waste even a drop of soup. Japan takes a good care of nature and protects their environment.

An anxiety I felt when I arrived in Japan as I was completely alien, now turned in some nostalgias. During my training programs for 7 months, all staff members and instructors at Kanagawa Prefectural Government, Kanagawa Prefectural Institute of Public Health, Kanagawa Prefectural International Training Center, took care of me kindly and nicely. I appreciate so much for them to prepare great contents of curriculums and lots of outdoor activities. They offered me a comfortable circumstance as well. Away from my home country, crossing the ocean to the foreign country, but I've never felt loneliness or anxiety even during the period of the New Year, Chinese New Year and on my birthday. This is because everyone welcomed me with a warm-heart and treated me like a real family. They also gave me sincere considerations and devotions from the bottom of the heart. I am so grateful to have met Japanese teachers, host family and all people at Ebina International Society, Kanagawa Prefectural college of Technology and Futamatagawa elementary school. This 7-month period would be the most beautiful memory which I will cherish it whole of my life.

I thank you very much for everything. I so look forward to seeing you again in my hometown or in China. You will be in my heart forever.

